



門間みか氏、新著発表記念パーティーを挙行

2021/06/23 21時15分配信(最終更新22時40分)

本日昼、名古屋市内のホテルで門間みか氏の新著『ぱん工房くーぷ×オーヤマくん もっとリッチとリーンで30日』の出版を記念するパーティーが催され、3000人を超える招待客、熱心なファン、政治家、経済人、自宅警備員、無関係者が集まった。

冒頭の門間氏による「皆さん、時代はさすがになぶるです。気楽にやりましょう。パンを焼くの面倒だったら、焼き芋焼いて食べてもいいんですよ」というパーティーの趣旨から外れるのも意に介さない、なんとも気の抜けた挨拶とは対照的に、来賓代表として祝辞を述べた大日本自宅製パン奨励党の焼成（やきなり）パンダ代表は、「しっかり環境を整えてくーぷを切り開いていきましょう!」と力のこもった言葉で会場を沸かせた。

今回のパーティーは本来の主旨である新著発表の他に、以前から激化しているリッチ派、リーン派の対立に終止符を打ち融和を図ることと、最近新たな争いの火種となっているA派とB派の和解の糸口を探ることという2つの隠された目的もあると門間氏に近い関係者は打ち明ける。その趣旨に基づき、前著を含めて60レシピの中から厳選された30品のパンはリッチ生地とリーン生地から、それぞれ15品が選定された。これらは会場各所に設けられた丸テーブルの上に交互に盛り付けられ、両派が自然に交じりあい、和やかな雰囲気の下で対立派閥のパンを口にする機会を持たせる試みがなされていた。

こどもたちのパンづくり体験コーナーも設けられ、親子連れにも配慮しつつ次世代ファン育成を狙う「サステナブル戦略」のパーティーにしたと門間氏は会場でのインタビューで胸を張った。前掲の関係者は、「門間自身は『さすがになぶるって言うておくとなんかカッコいいよね』というレベルの認識しかないが、とりあえずスタッフが考えてなんとか形にしてみた」と裏の事情を語る。

スタッフの努力もあって会場は大いに盛り上がっていたが、前著、新著とともに散見される生地を天板に所狭しと並べる門間氏の手法は、ややもすればパンの独立性や固有の成形美を軽んじているのではないかと眉をひそめる参加者もいた。しかし、門間氏の「オーヤマくん で焼くパンはくっついていい!」の宣言で会場からは大きな歓声が上がり、少数者の不満の声は、多数の前にかき消される形となった。

リッチ派とリーン派との間には期待された融和のムードが漂う一方で、A派とB派による抗争状態の終結は容易ではない。両派和解のきっかけ作りを目指して広い会場の一角に設けられた屋台コーナーでは、AとBの文字をあしらったTシャツの販売やオーヤマくんAと同Bの焼成実演及び試食が行われたが、それぞれの機材の優位性を主張するA派とB派との間で口論が発生するハプニングも発生した。

しかし、たまたまそばに居合わせた門間氏が「ふわふわちぎりパン」を次々と両派メンバーの口に放り込んで黙らせたために、幸い大事には至らなかった。両派メンバーはその後追加で渡された「チェダーチーズツイスト」と「昭和レトロな硬めプリン」を手に控室へ静かに退去させられたが、和解にはなお時間がかかることが予想される。

なお、会場となったホテルの外では、「小麦と酵母の命を守る会」のメンバー20人が「小麦の栽培、収穫、摂取の反対」、「人はパンのみにて生きるにあらず」といったプラカードを掲げ、出版反対のデモ行進を行った。デモ参加者の1人は「酵母だって生きていますよ!彼らの気持ちを考えたことがあるんですか!？」と憤った表情を見せた。

門間氏は「守る会」への主張に困惑した表情を浮かべながらも、酵母との対話を試みて和解・共生の道を探りたいとの決意を語っている。しかし、対話実現には相当の困難が伴うとの発酵学者の指摘もあり、事態の行方は混迷を極めていく。

(記者・門間 理良)

◀ 前の記事

次の記事 ▶

